

松本卓臣

旧名

金尾卓臣

まつもと・たくおみ

かなお・たくおみ

福山商工会議所会頭(第5代)、福山瓦斯株式会社社長

経歴

生:大正9年(1920年)6月1日、広島県沼隈郡赤坂村(現福山市赤坂町)生まれ

昭和13年(1938年)	17歳	広島県立福山誠之館中学校卒業
—	—	山口高等商業学校卒業
昭和18年(1943年)9月	23歳	東京商科大学(現一橋大学)卒業
昭和18年(1943年)10月	23歳	横浜正金銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行
昭和19年(1944年)5月	23歳	松本家へ入籍
昭和19年(1944年)5月	23歳	山陽染工株式会社常任監査役
昭和19年(1944年)12月	24歳	山陽染工株式会社代表取締役
昭和28年(1953年)	30歳	アフリカ、ヨーロッパ、アメリカを周遊
昭和34年(1959年)	36歳	ダイヤ石油株式会社社長
昭和36年(1961年)1月～ 昭和42年(1967年)	40～ 47歳	福山瓦斯株式会社社長
昭和40年(1965年)3月	44歳	山陽染工株式会社社長、中国紡織株式会社社長
昭和40年(1965年)5月～ 平成4年(1992年)5月	44～ 71歳	広島県織染工業(協)理事長
昭和40年(1965年)7月	45歳	(社)発明協会広島県支部副支部長
昭和40年(1965年)10月1日 ～昭和42年(1967年)4月24 日	45～ 46歳	広島県教育委員会委員
昭和42年(1967年)7月	47歳	紺綬褒章(福山城再建に寄付)
昭和42年(1967年)9月	47歳	紺綬褒章(福山市社会福祉事業に寄付)
昭和42年(1967年)9月	47歳	紺綬褒章(福山市葦陽高等学校に寄付)
昭和45年(1970年)3月13日 ～昭和52年(1977年)9月30 日	49～ 57歳	広島県教育委員会委員

昭和46年(1971年)2月～	50歳 ～	福山瓦斯株式会社社長
昭和51年(1976年)11月	56歳	厚生大臣表彰(健康保険発展功績)
昭和52年(1977年)10月	57歳	福山市固定資産評価審査委員会委員
昭和54年(1979年)4月～ 昭和60年(1985年)5月	58～ 64歳	広島県織物構造改善工業組合、広島県織物工業連合会 理事長
昭和56年(1981年)	61歳	福山商工会議所副会頭
昭和56年(1981年)11月	61歳	藍綬褒章(繊維染色事業発展功績)
昭和58年(1983年)8月	63歳	(財)備後地域地場産業振興センター副理事長
昭和60年(1985年)5月	64歳	広島県織物構造改善工業組合、広島県織物工業連合会 顧問
平成元年(1989年)12月	69歳	紺綬褒章(美術品購入資金を寄付)
平成3年(1991年)6月	71歳	山陽染工株式会社社長
平成3年(1991年)11月～ 平成16年(2004年)11月	71～ 84歳	福山商工会議所会頭(第5代)
平成3年(1991年)11月	71歳	日本商工会議所議員
平成3年(1991年)11月	71歳	広島県商工会議所連合会副会頭
平成3年(1991年)11月	71歳	備後地域商工会議所会頭会議議長
平成4年(1992年)7月～ 平成6年(1994年)6月	72～ 74歳	国際ロータリー理事
平成5年(1993年)7月～ 平成6年(1994年)6月	72～ 74歳	国際ロータリー財務長
平成6年(1994年)4月	73歳	福山市土地開発公社理事
平成7年(1995年)5月	74歳	福山信用金庫会長
平成8年(1996年)1月	75歳	株式会社エフエムふくやま会長
平成8年(1996年)4月	75歳	通商産業大臣表彰(工業所有権制度功績)
平成8年(1996年)6月	76歳	(社)福山市観光協会会長
平成8年(1996年)6月	76歳	郵政大臣感謝状(簡易保険事業発展功績)
平成8年(1996年)10月	76歳	福鞆信用金庫(合併により改称)会長
平成9年(1997年)1月	76歳	福山市都市計画審議会委員
平成9年(1997年)11月	77歳	勲三等瑞宝章(産業振興功労)
平成11年(1999年)2月	78歳	福山防衛協会会長
平成14年(2002年)	81歳	旧福山そごう跡地を福山市へ寄贈
平成15年(2003年)1月	82歳	しまなみ信用金庫(合併により改称)非常勤理事
平成15年(2003年)6月30日	83歳	福山名誉市民

平成16年(2004年)11月

84歳

福山商工会議所名誉会頭

生い立ちと学業、業績

松本卓臣氏は大正9年(1920年)6月1日、広島県沼隈郡赤坂村(現福山市赤坂町)に生まれ、昭和18年(1943年)9月東京商科大学商学部を卒業。

昭和18年(1943年)10月から横浜正金銀行(現東京三菱銀行)に入行勤務した。

昭和19年(1944年)4月山陽染工株式会社の創立者松本末太郎氏の養嗣子となり、同年12月同社常務取締役役に就任、弱冠24才にして企業経営の枢機に加わり、戦中戦後の混乱期を学生時代の陸上長距離選手として養われた不屈の精神と忍耐力をもって乗りきり、昭和40年(1965年)3月養父の跡を襲い同社代表取締役社長に就任した。

平成3年(1991年)6月からは代表取締役会長に就任し、現在まで長きにわたり社業の発展と染色整理業界のために尽力してきた。

公益事業である福山瓦斯株式会社については、急逝した社長の後継者を巡って同社内で混乱が生じ、半年以上も社長不在の状態にあったが、昭和36年(1961年)1月会社存亡の危機を救うには公正中立で実行力のある若手経営者が必要との考え方により、氏に白羽の矢が立ち、代表取締役社長に就任した。

すでに昭和23年(1948年)2月中国紡織株式会社常務取締役、昭和26年(1951年)7月内外物産株式会社及び昭和34年(1959年)4月ダイヤ石油株式会社の各代表取締役社長に就任していた氏は、若年ながらもその豊富な経験を生かして時代の潮流を敏感に洞察し、矢継ぎ早に改革に着手した。

その後、昭和42年(1967年)8月同社代表取締役社長を一時退任したが昭和46年(1971年)2月復帰し現在に至っており、積極的な経営方針と非凡な経営手腕により飛躍的に業績を伸ばし、エネルギーの安定供給を通じて地域に貢献している。

また、平成7年(1995年)5月福山信用金庫会長に就任し同金庫の再建に着手し、平成8年(1996年)10月には鞆信用金庫との合併を成し遂げ福鞆信用金庫会長に就任した。

氏の商工会議所における経歴は、昭和40年(1965年)3月福山商工会議所議員となり昭和43年(1968年)3月常議員に就任し、昭和56年(1981年)3月からは副会頭としてよく会頭を補佐して商工会議所事業・運営全般に携わり、平成3年(1991年)11月推されて会頭に就任、商業近代化実施計画の策定、空き店舗対策など商工会議所事業を積極的に推進してきた。

その間、昭和43年(1968年)3月からは15年間にわたり商工会議所貿易委員会委員長を務め、貿易の振興と発展に取り組んだ結果、福山港における入港隻数は飛躍的に増加し、現在では広島県内では広島港を抜いて県内第1位、中国四国地方でも下関港、水島港に次いで第3位となるに至った。

昭和51年(1976年)9月竣工をみるに至った地域の商工業者の拠点である商工会議所会館

建設についても、会館建設計画副本部長として本部長を補佐して活躍、用地の確保、会館建設計画、募金活動などに率先して従事し事業を成功裡に導く原動力となった。

昭和58年(1983年)4月には小企業等経営改善資金審査委員会委員長に就任し、小規模事業者の育成や活動の支援を行った。

また、氏の関係団体における経歴としては昭和40年(1965年)5月日本染色協会理事、広島県織染工業協同組合理事長、昭和44年(1969年)6月社団法人日本染色協会常任理事に就任し、昭和54年(1979年)6月には広島県織物構造改善工業組合理事長に就任するなど、当時の厳しい繊維産業界において地方及び中央の繊維構造改善事業等に尽力した。また、社団法人発明協会の評議員を昭和55年(1980年)6月から現在まで、継続して就任し、工業所有権制度の推進等に尽力している。

更に、昭和56年(1981年)5月、氏は地域の発展は特色ある事業の推進が不可欠であるとの信念のもとに福山地方産業デザイン振興協会(後せとうちデザイン振興会に改称)を結成し、自ら会長に就任し地方デザインの積極的な振興を図っている。

このほか、昭和55年(1980年)3月広島県中小企業団体中央会副会長、昭和56年(1981年)5月日本経営者団体連盟理事、昭和57年(1982年)4月社団法人福山法人会副会長、昭和63年(1988年)4月福山労働基準協会会長などを歴任し、地方産業の育成発展に大きく貢献している。

昭和62年(1987年)4月第3セクターの株式会社ふくやまテレコム設立に参画、取締役就任、平成6年(1994年)6月からは同社代表取締役社長に就任し、情報処理事業に取り組んだ。

平成8年(1996年)1月には株式会社エフエムふくやまを設立し代表取締役会長に就任、同年8月に開局したコミュニティエフエム局は、地域に密着した情報提供を行い多数の市民から支持されている。

更に、平成5年(1993年)3月、創設された福山市大規模事業推進協議会の募金委員会委員長に就任、福山市が建設を予定していた芸術文化ホールや屋内競技場、大学設置等のいわゆる大規模事業に対する募金活動を行い、現在までに実に26億円余の申し込みを受けるに至った。

氏の公職歴としては、昭和40年(1965年)10月から広島県教育委員を通算9年間務め、戦後のいわゆるベビーブームの中で、高校在籍生徒数の急増が見込まれた昭和50年代後半からの学校教育の在り方を検討し、昭和46年(1971年)の広島県長期教育計画策定に大きな役割を果たした。

また、昭和52年(1977年)10月から福山市固定資産評価審査委員会委員、平成6年(1994年)4月から福山市土地開発公社理事、平成9年(1997年)1月から福山市都市計画審議会委員にそれぞれ就任し、地方行政の推進に寄与している。

氏は、福山ロータリークラブが設立された昭和28年(1953年)以来ロータリー活動に参加し、第269地区ガバナーも務め、平成4年(1992年)7月から2年間は国際大会での全クラブの選挙によって国際ロータリー理事に選任された。

この時日本から選出された理事はただ1名のみであり、昭和元年(1926年)の日本からの初の理事就任年から数えて19人目という快挙であった。

しかも平成5年(1993年)7月から1年間は理事の互選により財務長に選ばれ、財務委員会の委員を務め、事務総長の財務運営状況を監督し国際大会で年次報告を行った。
なお、財務長は日本人としては初のポストであり、氏のボランティア精神の高さと国際感覚の素晴らしさ、それに財務や経理にも精通している経歴が大きくものをいったことになる。

また、氏はその他においても昭和40年(1965年)6月から現在まで財団法人松本育英会理事長として奨学資金貸与事業を継続して実施してきており、その貸与累計額は1億4千5百万円余に達している。

また、学校法人福山大学の設立にも参画し、昭和51年(1976年)4月同大学評議員となり、平成3年(1991年)4月からは理事に就任して現在に至っている。

昭和44年(1969年)12月福山防衛協会を結成し、平成3年(1991年)2月から副会長の要職に就き防衛思想の普及に尽力している。

平成14年(2002年)旧福山そごう跡地を市に無償提供するなど、産業の振興や地域の活性化にも貢献。

このように、氏はまれにみる優れた指導力を発揮して常に商工業の振興発展に情熱を傾け、経済界はもとより、地域社会から絶大なる信頼と敬愛を博している。

誠之館所蔵品				
管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
06765	ふくやま美術館 編	『福山市市制施行95周年記念事業 秘蔵・ 茶の湯の美－松本コレクション－』	ふくやま美術館	平成23年

出典1:『叙勲功績調書』、平成9年11月

出典2:『福山市名誉市民推戴文』、平成15年8月

出典3:『広島県教育委員会六十年の歩み』、429頁、広島県教育委員会編、(株)ぎょうせい刊、平成20年11月1日

出典4:『福山市市制施行95周年記念事業 秘蔵・茶の湯の美－松本コレクション－』、ふくやま美術館編刊、平成23年10月8日

2004年10月7日更新:本文追加●2005年6月1日更新:経歴・本文●2006年6月30日更新:タイトル●2007年12月3日更新:経歴・本文●2008年12月11日更新:経歴・出典●2011年7月5日更新:経歴●2011年10月19日更新:経歴・誠之館所蔵品・出典●